

# 科学史技術史通信

特定非営利活動法人  
科学史技術史研究所

田中・山崎・飯田・菊池・道家文庫

No.14

2011.1.20

165-0027 東京都中野区野方1丁目29番1-B101

Website URL: <http://ihst.jp/> e-mail: [ihst@ihst.jp](mailto:ihst@ihst.jp)



Stockholm のスウェーデン・アカデミー:1786年グスタフ三世によって設立。1901年以来ノーベル賞の文学賞を選定する機能を有している。この建物の1階は、ノーベル博物館ノーベルとノーベル賞の展示、それに受賞者がサインした椅子を展示しているカフェがある。(2008.12撮影)



(同アカデミー紹介パンフから)

## TICCIH 第14回 フライベルク会議 2009) に 参加して (その後の考察)

酪農学園大学 山田大隆

### 1. 参加の動機

文明国の技術革新による発展の遺産(産業遺蹟、遺産)を保存し、環境との調和、もの作り、技術文明の意義と問題点、協調主義による将来展望を国際的に検討しネットワーク化する国際会議の重要性は年々大きくなっている。日本でも産業遺産の保存と活用による地方自治作りの方向性を先進国国際経験から学び、また世界的に勝れた日本の実行経験を発信する上で、国際交流を求めて、ICOMOS、TICCIH、ICOHTEC等の国際会議に参加する日本国内の自治体、教育機関、学会、博物館等の研究者が最近増えてきた。

このたびの旧東独地域にある、著名な鉱山歴史都

市フライベルク市の工科大学(バルクアカデミー)で開催された、世界最大の産業遺産保存国際会議TICCIH(The Inter-national Committee for the Conservation of the Industrial Heritage 産業遺産保存のための国際委員会)ドイツ会議(第14回、2009年8/31~9/5)は、鉱山遺産調査を続けてきた筆者にとっても、参加動機は上記のこの国際会議の開催趣旨に基本的に則ったもので、公費学会参加の条件である研究発表は時間切れで申し込まなかったものの、結果は大変有益で持ち帰りの貴重な現地資料も多く、充実した参加体験であった。

また、日本科学史学会委員で長くフライベルク工科大学に留学してこの町と大学の学風に通じておられる木本忠昭元東京工業大学教授のアドバイスも参加動機として大きかった。

この報告は筆者の関連学会(産業考古学、技術史教育学、鉱山研究会他)での報告に、入手資料検討後の歴史的考察を加えたものである。

### 2. TICCIHの歴史と フライベルク会議の特徴と内容

第1回が英国産業革命発祥地で世界の産業観光中心地のイギリス・アイアンブリッジで1972年に開催され、近くは、1997年第10回(ギリシャ・アテネ/テサロニケ)、2000年第11回(イギリス・ロンドン)、2003年第12回(ロシア・エカテリンブルグ)、2005年中間会議(日本・名古屋)、2006年第13回(イタリア・テルニ/ローマ)の大会があったが、この著名なTICCIHの沿革37年史がHPを見ても全く記述されていないのは不備であろう。

このように、国際的な産業遺産保存の経験交流を中心的に進めて37年を経るTICCIHは前述のように、世界各国での産業遺産保存と研究、利活用に関わる諸問題、産官学民の共同事業間の連携問題、保存費用、行政と立法支援、環境教育との結合、教育支援(学社連携教育、市民生涯学習、博物館園教育)、産業観光等での国際交流、協議、国際ネットワーク創造、発信方策等を協議するために設立された。この立ち上げには、イギリス産業考古学会AIA、アメリカ産業考古学会SIA、ドイツ産業考古学会等の協力支援が大きく、基本的には産業考古学発祥イギリスの主導でイコモスと連携して、ユネスコの世界遺産(複合遺産・文化遺産=産業遺産)の選定審議機関でもある。

創立37年目の今回は第14回国際会議であり、ドイツ開催は1975年第2回ポップム会議以来34年ぶりで、準備国内委員長メンデ氏は大会実施直前に急逝されたが、参加者は39国363人で史上最大であった(連続参加30年実績の日本は18人で3位)。

会議テーマは産業遺産保存の今日的問題を反映した「産業遺産—経済と環境(INDUSTRIAL HERITAGE ECONOMY & ECOLOGY)」で、会場の著名な鉱山古都フライベルク市(人口4.5万人)は中世から開けたエルツ山岳地帯(エルツゲビルゲ)36鉱山の鉱脈中央にあつて銀、カリ塩を産出した歴史ある最大都市で、か

2頁以下の内容は、会員配布もしくは販売用の印刷物でお読みください。

以下には、2頁以降の目次と写真を掲載します。(全文8頁)

(山田論文つづき)



Mulde冶金所で使用されたシリンダー送風機:1828年機械技師Chr.Fr.Brendelによって提案設置され、1954年まで稼働された

学生にアンケート(産業考古学学修の適性検査)用紙

### 3. 古都フライベルクを歩く

.....  
.....

### 4. TICCIHフライベルク国際会議の内容

.....  
.....



参考. フライベルクの都市史と鉱山史  
(参考文献2(1)2008からの山田抄訳)

### 日本語参加報告参考文献

#### 14回TICCIH会議で入手した文献

2010. 12. 30 山田大隆 作成

1. TICCIH第14回国際会議関係
2. フライベルク市の歴史と現在の紹介
3. 鉱物学関係
4. 鉱山学関係
5. フライベルグ鉱山博物館関係
6. エムシャーパーク関係

### 7. その他(雑誌他)

#### 近年の科学史技術史書紹介

Gibson/Artigas, Oracles of Science: Celebrity Scientists versus Gold and Religion Oxford £12.99  
他 10点紹介

### 第4回ヨーロッパ科学史学会 国際会議に参加して 梶 雅範



(写真) ガウディのサグラダ・ファミリア(2010年11月21日撮影)



(写真) パルセロナ遠景 町を見下ろす山の手のグエル公園から撮影

### 本研究所ホームページの

#### 訪問者・頁閲覧状況

2011年1月	10日	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日
訪問者	36	48	44	67	65	129	55	50	45	45
閲覧頁(件数)	73	122	107	272	147	213	127	115	266	86